

[ライブ・サーティー]

Live30

<http://www.omichikai.or.jp>

VOL.

207

2014年
11月-12月



CLOSE UP

創立 60 年を祝い、式典を行いました
大道会 60 周年記念式典

OMICHI ACADEMY

第55回人間ドック学会学術大会
第25回病院管理実務・実践講座 第3会合
キャリア入職者研修会・新人職員フォローアップ研修会
ボバース概念における小児領域基礎講習会

OMICHI SCRAMBLE

診療所で役に立つ介助についての講習会を開催しました
国際ボバース講習会講師会議 (IBITA) に参加して

INFORMATION

活躍するリハビリテーション部



創立60年を祝い、式典を行いました。

大道会創立60周年記念式典

平成26年10月31日、帝国ホテル大阪にて大道会創立60周年記念式典を挙行了しました。
大道会職員をはじめ、OB・OG、地域を代表してモニター会の方々など
約800名の皆様にご出席頂きました。今回はその様子を紹介します。



大道道大理事長の挨拶

当時の光景を思い出し、
感動がこみ上げる
記念式典となりました

初めに、大道道大理事長から、「今回は和やかな式典になるように、職員が企画運営、そして当日の進行も行う本場に手作りの式典となっています。これからの時間をどうぞお気楽にゆつくりとお楽しみ下さい」と挨拶がありました。次いで、司会から宮井一郎副理事長を筆頭に天野圓常務理事ほか理事の方々の紹介がありました。紹介内容はユニークで、各理事のお人柄が伝わる内容だったこともあり、笑いがこぼれ、会場は和やかな雰囲気になりました。

その後、大道道大理事長による大道会の過去から現在への軌跡についてプレゼンテーションが行われました。大道学会長夫妻の二人三脚で、長屋の一角から始まった1954年の創立、新时期、挑戦期を経て、地域医療を担う主要機関となった大道病院時代には、月に1000台を超える救急



大道会の軌跡のプレゼンテーションでは、皆様が数々の出来事に感慨深く想いを巡らせていました

車を受け入れたこと、第二室戸台風によって施設が大打撃を受けたこと、そして、ボバース記念病院・森之宮病院をはじめとするさまざまな医療福祉施設の開設など、現在では約1300名の職員を抱える大きな医療法人グループとなった大道会の歴史をスクリーンに映し出される写真を見ながら感慨深く振り返りました。

最後は、大道会の未来について、現在取り組みが進んでいる未来創造プロジェクトの「課題解決スキル強化ワーキング」「人事制度改良ワーキング」「大きなお世話ワーキング」「データ分析スキル強化ワーキング」「経営戦略策定ワーキング」のワーキングメンバーから取り組みや今後の展開が発表されました。



約800名の方々がご出席下さいました



スクリーンに次々と映し出される大道会60年の歩み



大道道大理事長から大道學會長への感謝状の贈呈



似顔絵と寄せ書きを受け取り、笑顔の大道學會長



宮井副理事長の挨拶



式典では皆様、緊張した面持ちでしたが、祝宴は終始、和やかで、笑顔のこぼれる、笑い声の絶えない大変貴重な時間となりました



1等賞の海外旅行を当てたボバース記念病院医療相談室の鷺山さん。まさか自分が..と驚きと喜びの表情

式典では、大道學會長と大道喜美子本部長に、60年の長きにわたる法人の発展への貢献に感謝の意を表して、大道道大理事長より感謝状の贈呈がありました。そして、サプライズとして会長と本部長の顔を模して造られた素敵な似顔絵と寄せ書き、花束の贈呈もありました。そのことを全く知らされていなかった会長は、驚きつつも大変喜んで、祝辞を述べました。祝辞の中で、「職員全員が力を合わせてきたからこそ今の大道会があります。昭和36年の第二室戸台風の前も大道会はずんずん吹雪飛ぶほどの大変な被害を受けましたが、職員全員が一致団結し、自然の驚異の前に強張った面持ちながらも、負けじと立ち向かい、懸命に対処した姿が今でも目に焼き付いています。本当に感謝しています」との言葉があり、長きにわたって大道会を牽引してきた会長としての強い気持ちと職員を想う温かい言葉が心を打ちました。

祝宴は宮井副理事長の挨拶に始まり、「この度の式典により、ご出席の皆様は『大道会』をより身近に感じられたことと思います。これを機に、今後、私たちは地域の中でどのような役割を果たし、どのような活動を発展させて未来を切り開いていくかを一緒に考えて頂ければ幸いです。大道会の各組織や取り組みが横につながり、線となり、そして平面となり、更にはそれに行きわたるのか。個人単位、部門単位での思いや努力にとどまらず、『個人の力が組織の力として蓄積されていく仕組み』

続いて行われた祝宴では
華やかな余興もあり、
会場はさらに活気づきました

を構築するために、皆が一つになってより良い法人の風土を作っていきたい」と述べました。その後、今林院長による乾杯の挨拶を皮切りに、全員がシャンパンで会を祝いました。

祝宴の後半は、OSK劇団による華やかな余興や、職員対象に海外旅行やさまざまな豪華賞品が当たる景品抽選会などもあり、会場は催しごとに大盛り上がりでした。抽選会では、大道理事長自ら壇上で景品当選者への声掛けや握手をして、当選の度に歓声も上がっていました。最後は前田局長の挨拶で締めくくられ、帰り際には、ご出席の皆様全員に60周年記念誌が記念品とともに配られました。

この60周年を機に、私たち大道会は新たなステージに向かって大きな一歩を踏み出します。今後とも皆様のより一層のご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



今年流行した映画「アナと雪の女王」の『Let it go～ありのまままで～』を熱唱するOSK劇団員



ビュッフェスタイルの立食パーティで、好きな料理を取ってお酒を酌み交わし、懇親を深めました

発表報告

第55回人間ドック学会 学術大会



帝国ホテルクリニック
検診技術部
放射線診断科
西村 二美

**乳がんに対する意識を高め、
乳がん検診の重要性を訴えたい**
日程：9月4日～5日
場所：福岡国際会議場

「当施設の自治体乳がん検診の現状」という演題で発表させて頂きました。

平成21年度から無料クーポン券が配付されていますが、大阪市の利用率は2割前後にとどまっています。当クリニックでは、大阪市の乳がん検診を始めて3年が経過しました。無料クーポン券は、初めて乳がん検診を受ける受診者さんには良い動機づけになっています。また、一度、乳がん検診を受けた受診者さんは、無料クーポン券が無くても継続して検診を受ける傾向がみられました。しかし、今年度から配付対象が40歳代の方のみとなり、受診率の低下が危惧されていました。ですが、大阪市では9月に「コール・リコール制度」として、今まで検診を受診しなかった方も対象に、未利用者が検診無料クーポン券を送付することになり、今後は受診率の向上が期待されます。

乳がんは、40～50歳代の働きざかりの女性に多く、女性が一生の間に乳がんになる確率は、14～15人に1人といわれています。また早期発見し、適切に治療すれば9割以上のケースで治癒が

期待出来ます。乳がんに対する意識を高めるためセルフチェックを定期的に行うことで、普段の乳房の状態が分かり、変化に気づきやすくなります。早期に発見・診断・治療が出来るよう乳がん検診を受けて頂けたらと思います。また、一度限りではなく、継続して検診を行うよう更なる啓蒙活動の必要性を感じました。



参加報告

第25回病院管理実務・ 実践講座第3会合



森之宮病院診療部
地域医療連携室
里中 亜希子

**自分の業務の必要性や責任も
実感することが出来ました**

日程：8月21日
場所：大阪府病院年金会館

ベルランド総合病院の村上佳代氏の講義は、私の業務と重なる部分が多く非常に勉強になりました。連携室の業務は効果が見えにくいものですが、病院組織の中核であることがよく分かりました。断らない・断れない体制づくりをするために、医師に依頼を引き受けてもらうためには自分がどう働きかけるのか考えながら行動しなければいけないと思います。また、開業医を訪問する際は、医院の情報をしっかりと掴み、その情報を当院の医師やスタッフに伝

達し地域医療をうまく活用しながら紹介件数、逆紹介の件数をあげられるようにしなければいけないと感じました。近森正幸医師が病院経営とチーム医療のお話をされましたが、高齢化や疾病構造の変化、医療の高度化が進む中、病院も時代とともに変化していかなければ生き残れないと感じました。近森病院には専門職スタッフが多いように感じましたが、専門性が高いからこそ短時間の情報交換で情報共有と医師の負担軽減が可能なのだと思います。

また、他病院の連携室以外の方から、「自院の紹介率や逆紹介率を連携室に確認したが分からないと言われて驚いた」とのお話がありました。他部署の方は連携室ならば知っていて当然と思っていることを知り、自院の病床数や実績は把握しておくべきと感じました。

受講報告

キャリア入職者研修会



森之宮病院看護部
5階東病棟
樋口 広子

**一日も早く、医療人として
成長していきたいと決意**

日程：8月5日
場所：森之宮病院8階会議室

天野常務理事から「大道会グループの概要・長期経営方針など」をテーマに講義頂きました。全病院の70・1%が赤字経営の中、大道会は医療の質・経営の質とも全国トップレベルの社会医療法人として評価されており、諸先輩方の努力

の素晴らしさを感じました。患者さんの不満についてのお話では、「意思疎通」が医療に必要不可欠と分かり、顧客(受診者)サービスにつなげていくように、心がけることを学びました。人材づくりに大道会は1%の経費を使っていることを知り、入職者研修の意義に深く感銘しました。

峰部長からは「防犯・防災について」を講義頂きました。不審者を見かけたら軽く声掛けをすることで、防犯意識のある病院であると印象を与えます。「ご案内いたしましたでしょうか？」等、私も積極的な声掛けを心がけたいと思いました。

荒木課長からは「接遇の基本」を講義頂きました。接遇とは、相手に対する思いやり「優しさ」「気遣い」を言葉や目に見える形で表現したものです。また、利用者さんは医療機関をサービス業と認識していることや、本質的サービス(医療の質)と表層的サービス(あれば嬉しいサービス)があることを知りました。「一方通行」の医療から「双方通行」の医療へ。本当の意味の接遇を改めて学び、実践出来るようにしようと決心しました。

高間主任からは「個人情報保護管理規定、就業規則、労務管理について」の講義を頂きました。現場では紙媒体の個人情報報を扱うことが多いので、気を引き締めて漏えい防止に努めたいと思いました。

就業時間中にこうした研修会があることや、人材育成に力を入れている法人の風土が、入職して間もない私にはとても新鮮で、働く意欲にもつながりました。一日も早く仕事を覚え、大道会の職員として、医療人として成長したいと決意しました。

受講報告

新人職員フォローアップ
研修会



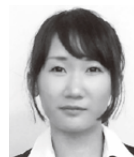
大道クリニック
人工透析科
窪田 佳織

自分を見つめ直し、
これからの成長につなげたい

日程：9月6日
場所：森之宮病院ウッディホール

天野常務理事の講義では、今後の日本の医療がどのように推移していくかや、医療機関の現状を学びました。今の日本では小さなクリニックにも高価な医療機器が設置されています。また、受診回数が他の先進国と比べると多く、高齢社会が進む中で生産世代の国民から医療費負担が大きくなるのではという不安の声が多く上がっているのとこのことでした。そうした負担軽減のために、クリニックと地域を担う中規模病院との連携が重要になり、必要な医療機器を最低限で稼働させ経費削減を考えなければならぬことが分かりました。大道会には、急性期から在宅まで施設が整っており、これからのニーズにあっているのではないかと感じました。

トレーナー講義では、自分の理想と現実の差を知ることが重要との説明を受けました。自分の課題は何か、そして、現実とのギャップを埋められるように解決策を考え、積極的に自分を見つめ成長につなげていきたいと思いました。



本部管理部
経理課
岡野 愛実

専門外の分野にも関心を広げ
スタッフとしての質向上を

① 我が国の医療制度の現状と将来展望
・日本の約8600病院中、約5800が赤字。

・日本の医療は1997年のシステム達成度が世界1位。一方、OECDでは第17位で、医療従事者のメンタルの問題や医療環境の悪さが挙げられており、評価は二分している。医師の不足や偏在によって産科・小児科・救急の閉鎖が増加し、国民の不安は増加している。米国は人口の7割が高い民間保険に加入。英国では、薬をなかなか処方してくれないなど、日本では考えられない実態がある。

・2025年問題により、「時々入院、ほぼ在宅」の考え方が根付き、病院が減少すると考えられる。ニーズは多様化し、また活動場所も多様化するであろう。

①の研修を通して、これから先、「患者さんに選ばれる病院」になるためには、医療だけでなく、スタッフの質も求められると感じました。そのために、専門分野以外にも関心を持ち、前向きな姿勢を身につけなければならないと思います。

② 1年目職員フォローアップ

・「社会人基礎能力」とは、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」であり、ヘルスケア分野に携わる者にはさらに倫理力も求められる。

・仕事上では様々な問題が生じるが、必ず兆候がある。それを出来るだけ早く、

正確に認知することで、問題の拡大を食い止めることが可能。

②の講義で、目標の状態を細かく書き出すことで今の自分が実行するべき具体的なことが見えてきました。それを今後の業務に役立てたいと思います。

③ フィーリングアート

音楽や歌、幻想的な光によって、とてもリラックス出来ました。このような時間を積極的に持つことも、効率的な業務のために必要だと思いました。

参加報告

ボバース概念における
小児領域基礎講習会



森之宮病院
リハビリテーション部
理学療法科主任
山本 裕子

これからの小児リハビリテーションのさらなる発展に向けて

日程：1月14日～3月7日

場所：森之宮病院ウッディホール

この講習会は毎年当院で行っていますが、今回は約20年ぶりに当院の紀伊名誉副院長が全日程に参加する大変貴重な講習会となりました。紀伊名誉副院長はボバース記念病院創設時から大道學會長と梶浦一郎元ボバース記念病院院長とともに、日本のリハビリテーションの発展に貢献してきました。

今回は紀伊名誉副院長がボバース夫妻から受けた教えをもとに今までの臨床経験と知識を集約して全く新しい講習会となりました。プログラムは最新の神経科学の知識を取り入れるとともに

に、グループ討議を多く取り入れた形に一新されました。これは、受講生に「考える」ことを行ってもらうためです。職場に戻った時に自分で考えることが出来るなければ、せっかく得た知識や技術を臨床の場で役立てることが難しくなります。また、私が印象に残ったのは正常発達の見方です。姿勢コントロールを学習していく機構を運動、認知、言語などの視点から観察し、正常発達の意味と役割が理解しやすくなりました。

最新の神経科学を小児分野に生かすことが出来るのは、当院のように小児と成人をどちらも治療出来る環境があるからだと思います。また、ボバース概念は常に向上心を持ち、患者さんのことを考え、最新知識を取り入れて進化していくことが大切です。

この貴重な講習会に鳥瀬義知主任、吉田真司科員と私が参加させて頂き、終了後、紀伊名誉副院長からインストラクターに承認されました。

講習会を通して知識、技術はもちろん、講習会開催に必要なインストラクターとして心構えも学びました。この



経験は今後の糧になると思います。そして、後輩に先輩方の思いや知識を伝えていくことが私たちの大きな使命だと感じています。

診療所で役に立つ介助法についての 講習会を開催しました

病棟で実践中の介助 スキルを参加者に伝授

9月6日に、森之宮病院1階中央処置室で「診療所で役に立つ介助のワンポイントアドバイス」と題した講習会を開催しました。

当日は、5つの診療所から18名の参加者が駆けつけて下さり、会場となった中央処置室が、熱気あふれる介助指導教室となりました。

講習会の内容は、車いす操作・寝返り・起き上がり・トランスファー・更衣等の基本的な介助方法に関する全体デモンストレーションと、グループ



宮井副理事長の挨拶



全体デモンストレーションの様子



車いす介助時のアドバイスを伝える講師



グループごとの実技指導の様子

ごとの実技指導です。宮井

副理事長の開会・閉会挨拶を

はじめ、森之宮病院回りハ病

棟担当で構成する「地域に

開かれた回りハプロジェクト

（院内の専門職で結成された

『リハビリテーションチーム』

が、回復期リハビリテーショ

ン病棟で培った専門スキルを

地域の方々へ還元する取り組

み」から、堅田科長・柴田科

長・多田科長・安福科長の4名

が講師として活躍しました。

参加者が実践できる ことを意識した講習内容

全体デモンストレーション

では、レクチャーに合わせて、

各担当者が配役に則った実技

を披露し、日ごろから患者さ

んの心情等に配慮した介助を

実践している様子が伝わって

くる内容でした。当日には各

介助方法の詳細を写真付きで

説明した資料を配布しました

が、レクチャーの内容を熱心

に資料に追記する受講生の姿

も多く見られ、関心を持って

受講して頂いたことが伝わっ

てくる受講風景でした。

グループごとの実技指導で

は、各参加者がお勤めの診療

所における介助の悩みなどを

講師に伝え、各講師が参加者

のニーズに応える形で実技指

導が進行しました。中には診

療所内のスタッフの動線確認

や手すり設置等のアドバイス

もあり、実践を意識した実技

指導が活発なコミュニケーション

のとりまきが行われました。

ご要望に応じて

出張講習を行います

各講師と参加者による息の

合った絶妙な実技指導の影響

で、笑いの絶えない非常に和

気あいあいとした指導風景と

なり、大変盛況のうちに終了

しました。

アンケート結果からは、「楽

しく勉強させて頂けた」「直接

体験出来て良かった」「実際の

状態を考え、詳しく教えても

らえて今後の役に立つと思っ

た」等の声や、「今後も定期的

にこのような講習会を開いて

もらえたら助かります」等の

要望を頂きました。今後は、

要望があれば出張指導にも対

応する予定です。

これまで森之宮病院では、

リハケアに関する講習会を看

護師・セラピストなどの各専

門職向けに定期的に開催し、

定評を得てきました。今後は、

これまでに培ったリハケアの

技術を地域の皆様にも役立て

て頂けるように発信していき

たいと考えています。

（森之宮病院医療相談室課長

藤井由記代）

国際ボバース講習会講師会議（IBITA） 年次総会に参加して

9月4日～6日に、イタリアのフィレンツェ市で、2014年度のIBITA年次総会が行われました。

IBITAとは、International Bobath Instructors Training Associationで、世界のボバース概念の成人インストラクターにより構成され、ボバース概念による治療の普及活動を行っています。現在、正規会員数が約250名になります。年次総会は、年に1度インストラクターを有する各国の持ち回りで開催されます。インストラクター養成のための国際ルール確認や検討、各委員会の委員の選挙および活動報告といった内容に加えて、インストラクターの研鑽の場としての教育セッションが行われます。今回は、ボバース記念病院リハビリテーション部から鈴木部長と中窪、森之宮病院リハビリテーション部からは日浦副部長、小室副部長、真鍋科員が参加しました。

昨年度から鈴木部長が教育委員を務めています。加えて日浦副部長がインストラクター教育委員に選出されまし



年次総会の様子

た。大道会から2名のIBITA委員が選出され、日本が国際的に果たす役割が大きくなっています。

教育セッションには、世界的に著名なイタリアの神経科学者のRizzolatti教授、Laquani教授、Maravia教授の教育講演と、教授陣およびIBITA教育委員によるワークショップが行われました。

Rizzolatti教授は、鏡ニューロンの研究の第一人者であり、模倣による運動学習がリハビリに有効であることを、把握動作を例に示されました。3人の教授の主張は、どれもボバース概念の実践を支持す



日本とイギリスのセラピストの交流

るものです。このような世界的権威の研究結果から、ボバース概念治療の発展や、治療効果の証明に明るい道が開けることでしょう。

また2日目の夕べに、世界のボバースを牽引するイギリスの講師グループ（BBTA）のメンバーと夕食会が開催され、日本の講師グループのメンバーと親交を深めました。

今年度の総会は、特に日本のボバース概念による治療の将来の発展のために、良い機会になったと実感しています。

（ボバース記念病院リハビリテーション部科長 中窪美佐緒）

頑張っている職員に注目！

ただ今、奮闘中

#47

難しいけどやりがいがある！

訪問看護ステーションおおみち

藤田千恵・西野江里・中村恵子 科員



左から、藤田千恵、西野江里、中村恵子科員です

看護師のローテーションが始まり、訪問看護ステーションおおみちに3人が異動になりました。ボバース記念病院在宅ケア科から藤田千恵さんが配属、訪問看護の経験もあり戦力として活躍しています。森之宮病院から西野江里さん・中村恵子さんが配属。西野さんは不安や戸惑いもありながらもやりがいを感じ、「訪問看護は楽しい」と。中村さんは、病院勤務の経験を訪問看護に生かそうと発起され、現在は新人訪問看護師として奮闘中です。訪問看護は、一人で判断し、実施しなければなりません。そのため責任も重く、看護の高度な技術と幅広い知識が必要です。一方で、それぞれのキャリアを生かす場所でもあると思います。自分の可能性・特性も見つけることが出来る場でもあります。訪問看護は、看護の原点にあると思います。利用者・ご家族から頂く笑いや喜び、感謝の気持ちが、訪問看護のやりがいになり、命の尊さ・夫婦の絆・家族の大切さなど、人としての大切なことを学ばせて頂いています。同じ思いを持った仲間と支え合いながら、今日も素敵な笑顔を届けていきたいと思います。

（訪問看護ステーションおおみち所長 植田恵子）

活躍するリハビリテーション部

鈴木三央部長が日本ボバース講習会講師会議 (JBITA)の議長に就任しました



8月3日、脳卒中後遺症をもつ方々へのボバースアプローチを理学療法士・作業療法士・言語聴覚

士に教授する講師の団体であるJBITAの年次総会が東京で開催され、ボバース記念病院リハビリテーション部の鈴木部長が第2代の議長に就任しました。

鈴木部長は、これまでも国際ボ

バース講習会講師会議(IBITA)の教育委員を務め、評価表の作成などに貢献。その努力が我が国の講師たちから認められ、議長に推薦され就任することになりました。今後も、国内外でのボバースアプローチの発展と普及のための活躍を期待します。(ボバース記念病院リハビリテーション部名誉副院長 古澤正道)

日浦伸祐副部長が国際ボバース講習会講師会議 (IBITA)のITC 委員に選出されました



リテーション部日浦副部長がITC (Instructor Training Committee)の

9月4日～6日、イタリアのフィレンツェ市で第30回IBITAが開催されました。その年次総会において、森之宮病院リハビ

委員に選出されました。現在、鈴木部長が所属するEC (Education Committee)はボバース概念の枠組みの構成や再編を行っています。ITCは世界のインストラクター候補者の教育を行っており、日浦副部長はIBITAにおけるインストラクター候補者、基礎講習会インストラクターを対象としたPre-Course, Post Courseのプログラム作成、コース開

催に携わります。

現在、日本はドイツについて世界で2番目のインストラクター数であり、日浦副部長には日本が果たすべき重要な役割の中核を担って頂きたいと思います。そのために当院リハビリテーション部も総力を挙げて協力していききたいと思います。(森之宮病院リハビリテーション部副部長 小室幸芳)

末宗梓主任が社団法人日本作業療法士協会の認定作業療法士に認定されました



「社団法人日本作業療法士協会認定作業療法士とは、作業療法の臨床実践、教育、研究及び管理運営に関す

る一定水準以上の能力を有する作業療法士を本会が認定したものをいう」と定義されており、全国に631名、大阪府に56名(10月9日現在)の認定作業療法士がいます。末宗主任は、日頃から協会の研修会や学会に参加するなどの研鑽の結果、この認定を受けることが出来ました。現在も育児と業務を両立し、大忙しの日々を送っています。今後も知識・技術の向上と生涯学習の意義の理解

を深めていくことを期待しています。(ボバース記念病院リハビリテーション部副部長 立松さゆり)

ご寄付・ご寄贈を頂きました

谷ひで様(大阪市東成区)、中井サダ子様(大阪市都島区)よりご寄付・ご寄贈を頂きました。ありがとうございます。有意義に活用させていただきます。

Live30【ライブ・サーター】 2014年11-12月号 vol.207〈隔月発行〉

編集発行人／社会医療法人 大道会
〒536-0023 大阪市城東区東中浜 1-5-1
TEL.06(6962)9621 FAX.06(6963)2233

■大道会

社会医療法人大道会本部
TEL 06(6962)9621
森之宮病院
TEL 06(6969)0111
ボバース記念病院
TEL 06(6962)3131
森之宮クリニック(PET 画像診断センター)
TEL 06(6981)9600
帝国ホテルクリニック(人間ドック)
TEL 06(6881)4000
大道クリニック(人工透析)
TEL 06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ
TEL 06(6965)0666
訪問看護ステーションおおみち
TEL 06(6967)1123
訪問看護ステーションおおみち森之宮営業所
TEL 06(6942)3737
訪問看護ステーション東成おおみち
TEL 06(6977)8680
ケアプランセンター城東おおみち
TEL 06(6964)5285
ケアプランセンター東成おおみち
TEL 06(4259)5311
レンタルケアおおみち
TEL 06(6967)6250

特別養護老人ホームサンローズオオサカ
TEL 06(6974)7388
東成山手学園(保育園)
TEL 06(6974)7377

●パソコン <http://www.omichikai.or.jp>
●携帯 <http://www.omichikai.or.jp/i.cgi>

バーコードを読み取っていただく、大道会の携帯サイトにアクセスできます。



編集後記

共通の話題は、いつも食の事。美味しさを人に伝えることは結構難しい。食生活の見直しによって食事バランスが重要性を増している現在社会において、巷には美味しいものばかりあり、私自身はつい出来合いで済ませてしまいます。昔ながらの素食が見直されている中、素材を生かしその味を楽しむこと、食することに喜びを感じることが大切であり、その味を素直に表現することが一番なのかもしれません。(ボバース記念病院看護部科長 笠松明美)